327
855

始

117-855

伯爵 李完用閣下題辭

藻浦 向井 章指導編著

催眠現象

大正
5. 7. 17
内交

淮南子曰夫心者五藏之主也所以制使四支流行血氣

大正四年冬至日為向井詞伯清覧

一堂手書

巻頭語

催眠現象とはその文字の示せる如く催眠施術による現象なり。然れども眞の催眠現象は、これをその形骸において求むることなくして、是非ともその心理狀態において求めざるべからず。惟ふに催眠術とは、その字義の頗る睡眠と混同し易きものあるがために、世人をして往々直ちに睡眠に催眠術とは、その字義の頗る睡眠と混同し易きものあるがために、世人をして往々直ちに睡眠と趣きを同うするものならんには、幵は遂に一夕の按摩、半合の酒と選ぶ所なけんのみ。

近時漸く催眠術の隆興を見んとするに當りて、專門家の間なほ且つ這個の消息を解せず、睡眠即催眠と心得、甚しきに至りては徒らに形骸に執着してその眞髓を沒了せるもの比々として然らざるは無からんとす。蓋し惟ふに催眠のことは實驗心理の領域内にあつて、これを行ふことの易きに比して、これを解することの難き多く比簪を見ず。これを行ふことの易きが故に田夫野人にして催眠術師と稱する者頻出し、これを解することの難きが故に岐路に走り邪路に迷ふ者滔々たり。

余や素短才寡聞、斯學術に關して敢て東道の任に堪ふる者ならずと雖も、而も多年實驗心理の研究に沒頭せる者、茲に各種の催眠現象について、その心理狀態を剖拆し、以て如何にその睡眠と異れるかを考覈せんとするは、畢竟如上の謬見を打破して、眞に催眠學術を研究せんとする者のために歸嚮を示さんとするに外ならず。若しそれ斯學の原理及び應用に至つては更に自ら所信の存するあり、同學諸士のために敢て開陳を惜む所に非ざるなり。

一碗の苦茗暑氣を拂ふ六月下浣

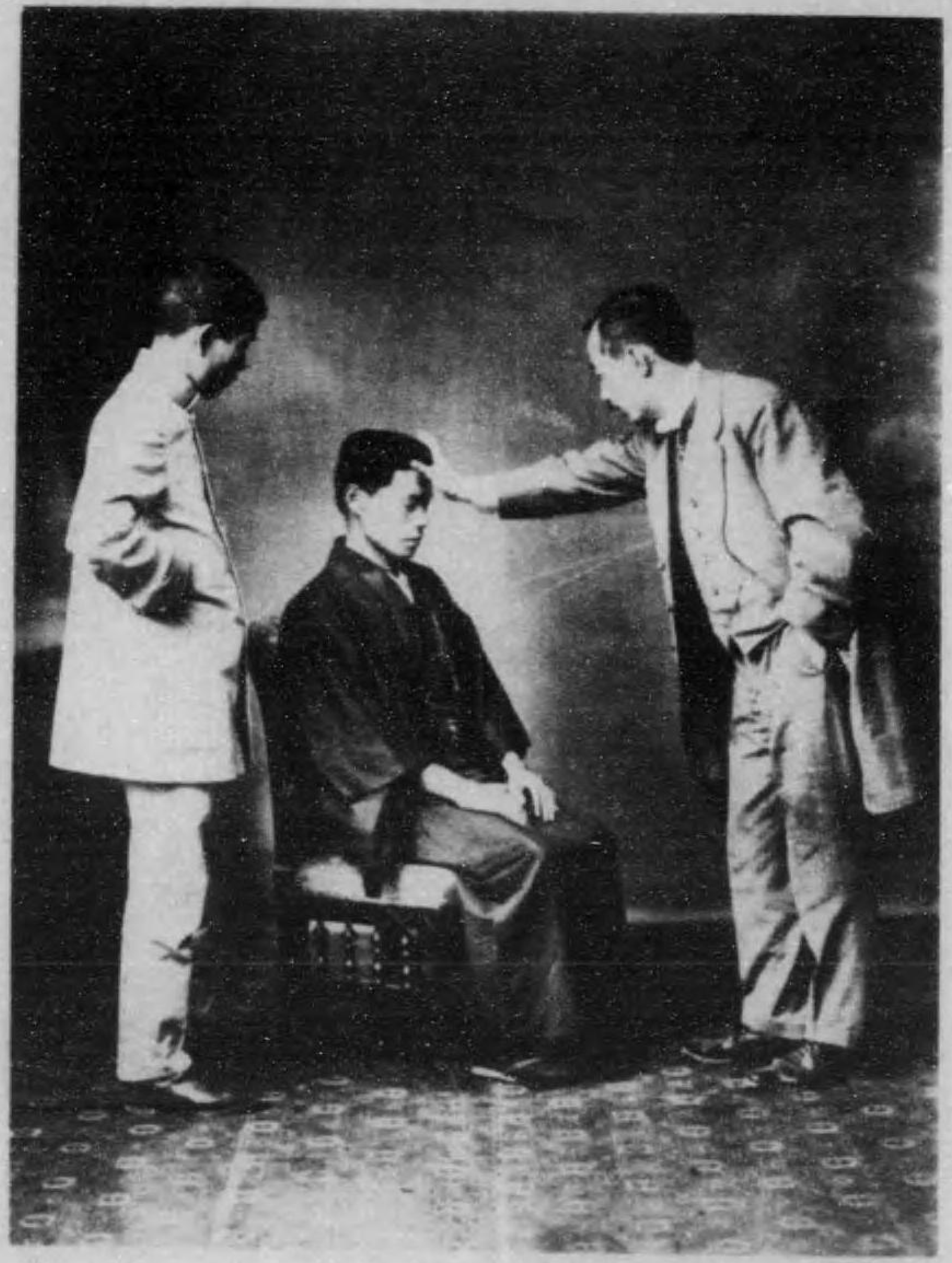
研究室に於て　藻浦生識

施術の光景

醫科大學に收容されたる學用患者にして發熱頭痛を訴ふ、施術は僅かに十秒内外にして、患者自ら狀態を自覺せざるに先立つて治病的暗示を與へ一回にして効を奏す。當時患者は催眠術の何たるを解せず、加ふるに疲勞座に堪へざらんこするものあり、この場合時間の問題は最大要件たらざるべからず。

他働催眠

被術者は今將さに催眠狀態に入らんとせり。彼の前頭部より上額部に亘る血管は稍や擴大して、酸素に富める血液は、彼の外頭部に向つて注ぎつゝあり。斯の多くして被術者は一種の快感を覺ゐつゝ次第に自我を沒了せんとす。世の催眠狀態を以て一種の貧血狀態なりとする論者のために一考の値あるべし。



自働催眠

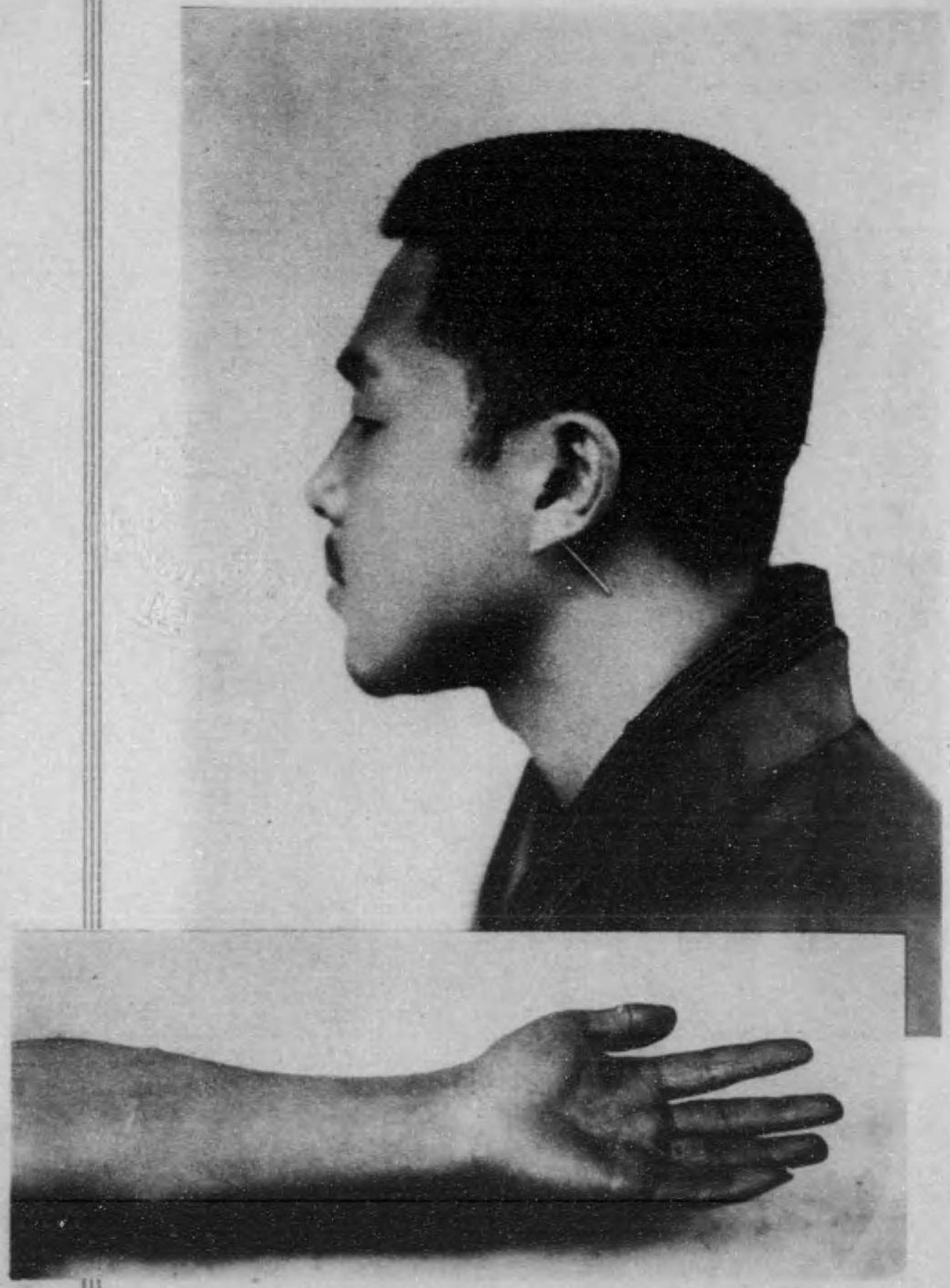
唯自己の觀念が働くことによつてのみ何等の疲勞を伴ふことなく易々として數秒の間に狀態に入る。呼吸、脉搏ともに平調にして觸診上更に變化の認むべきもの無く、觸覺、聽覺また異常なし、而も外來刺戟に對して自發的意思衝動なきは催眠狀態における特徵にして、睡眠との相違こゝに存す。

俯仰硬直

三樣の狀態を示す。向つて左端は俯し、右端は仰ぎ、中央は硬直のまゝ何れも深度の狀態にあり。脉搏平調にして呼吸緩徐、外頭部において多少の血管擴大を測定し得べく、暗示に對する感受性は三者を通じて旺盛にして、一喝催眠の場合こ選ぶ所なく、頭腦また些〻の混濁を認めず、自發的意思衝動なし。

無痛針

自己催眠による痛覺脫失にして、前者が術者の暗示によるに對して、後者は自己暗示卽ち觀念に基く。卽ち狀態に入るに先立つて與へられる自己暗示により、覺醒後に至つて痛覺脫失さるゝのみならず、その部位における血管は緊縮して出血を見ず、脉搏、呼吸ともに平調、一切の感覺は常態にあり、意識亦明晰。



一喝催眠

瞬間催眠の極致にして、術者が一喝を與ふる刹那において被術者は、何の苦もなく狀態に入り終る。この時意識明晰、聽覺普通、時としては却つて非常に鋭敏となり、遠隔における微音をも聽取するものあり、暗示感性は最も昂まり、感覺、動作ともに術者の與ふる所に從ふ。治病暗示はこの狀態に於て最も佳良なり。

痛覺脱失

被術者の感覺は鋭敏にして、四圍に起る雜然たる音響の如き悉く彼の聽覺に入れども、自發的意思衝動なきは自己催眠の場合に異らず。この時暗示によりて痛覺を奪ひ力を極めてその皮膚を爪れば、被術者は痛みを感ずることなきも、觸覺は依然として存するを見る、この場合狀態の深淺は絶對條件とするに足らず。

幻覺

視覺の內的に働けるものを心像こ稱し、その外的に働けるものを幻覺こ呼ぶ。被術者は催眠狀態中に與へられたる術者の殘續的暗示――眼が覺めれば眼の前を綺麗な鳥が飛で居る――によつて、覺醒後眼前に鳥の幻影を認め、これを熟視しつゝあり。他の感覺は平常こ異る所なく、又生理的變化の認むべきものなし。

錯覺

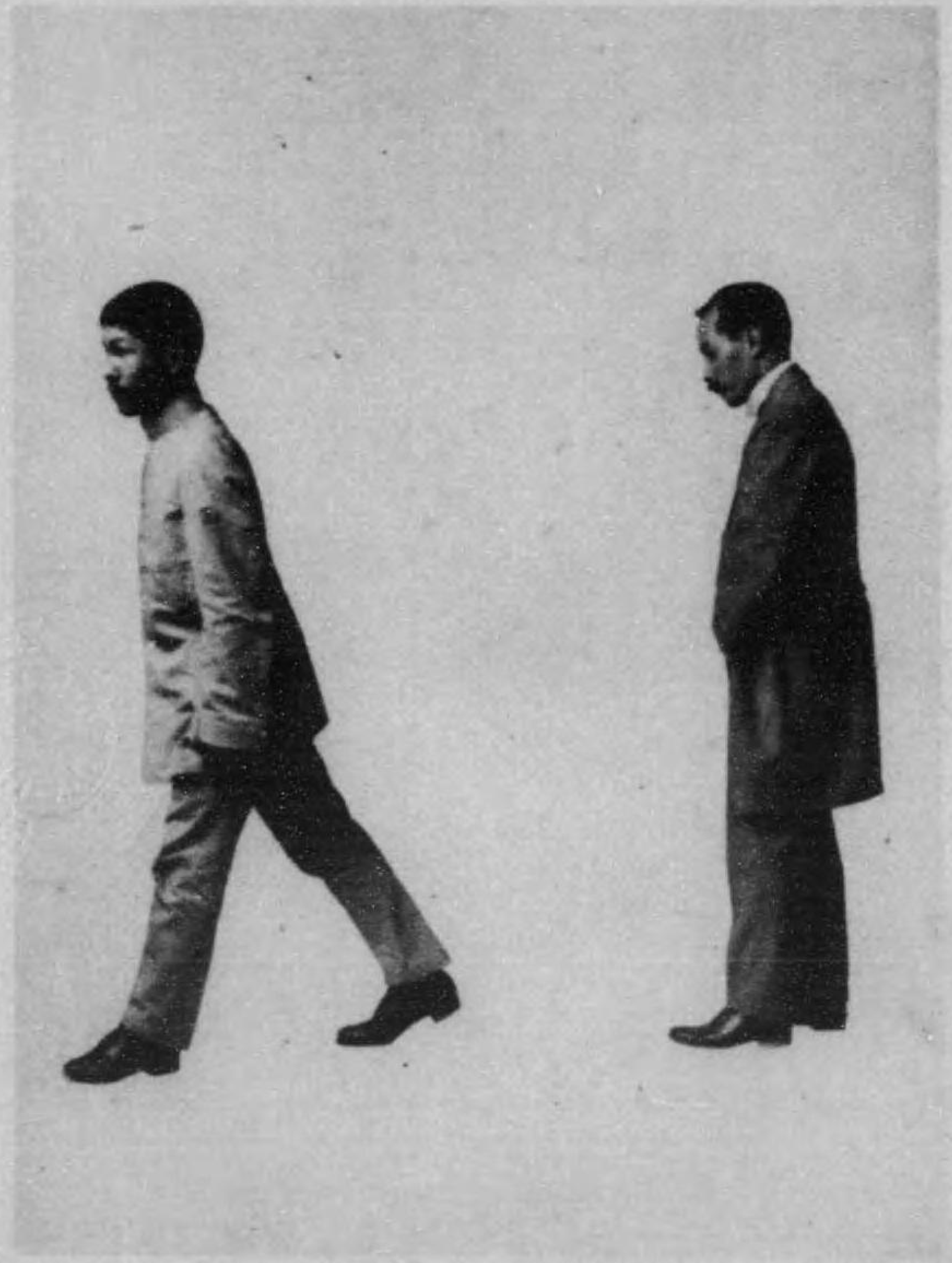
或る物体を他の物体こして認め、或る音響を他の音響こして感ずるを錯覺こいふ。爾他の感覺にありても亦然り。被術者は術者が百圓紙幣なりこ稱して與へたる一葉の紙片を眞に百圓紙幣なりこ誤認して少しも疑はざるのみならず、狀態中に眼を開かしむれば、彼は明かにその百圓紙幣なるを認めて得々たり。

硬直狀態

凝視法によりてこの狀態を作り得るも、頭腦混濁して感性の鈍痲を免れず。瞬間催眠によりて先づ狀態に誘ひ、引續き『お前はモウ鐵の如く硬くなつた』との言語暗示と共に輕く一二回撫擦することによりて苦もなくこの狀態に入る。呼吸緩徐、意識明晰、被術者はその体內に彈力性の何物かの入り來れるが如き感を生ず。

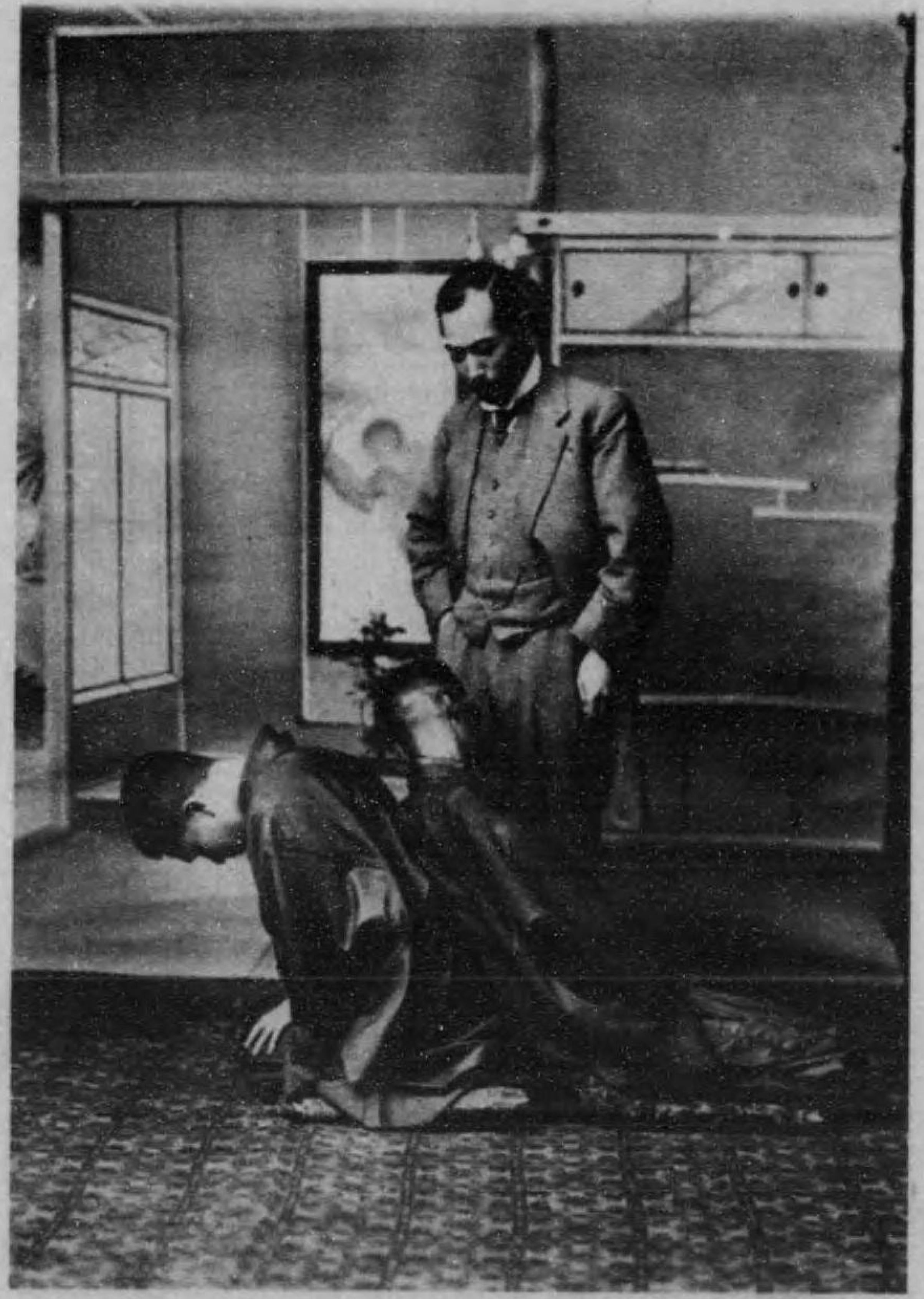
歩行膠着

常態暗示は對者の暗示感性の旺盛なる場合に於て奏効す。本圖の歩行膠着を實現せんがためには二様の方法あり。一は全然覺醒時に於て突然『止れ』の一語を以て足り、一は一應催眠狀態に導き、これに向つて覺醒後において歩行膠着の生ずべきを暗示し置きて覺醒せしむるものにして、催眠術としては後者に據るべし。



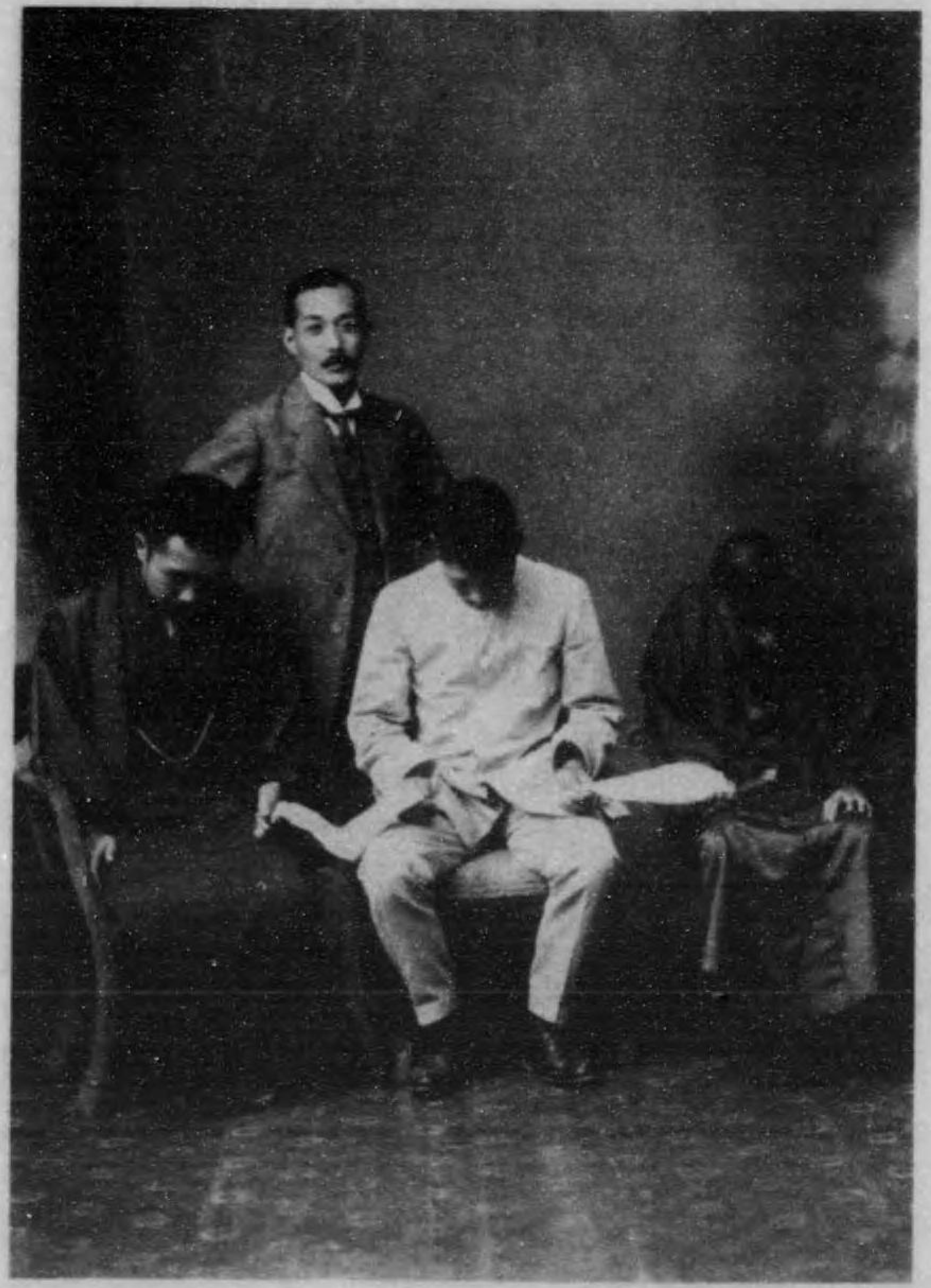
二人膠着

催眠施術は形式に待つなくして暗示に從ふ。二人膠着は實にその一例にして、二人の被術者を脊中合せに座せしめ、その何れか一人を狀態に導くことによりて他の一人も同時に狀態に入り、二人の脊は膠着して離れざるに至ることを謚し置き、普通の方法によりて一人のみを狀態に導けば、對者は苦もなく狀態に入る。



傳遞催眠

傳遞催眠は所謂多人數催眠の一變形にして、數人の被術者を一列に席に着かしめ、各人間の連絡を圖るべく一條の綱若くは手巾を持たしめ、その内の一人に施術することに依りて全部を狀態に導き得べき旨を說き、機を見て一人に施術せば、甲乙丙丁易々として狀態に入る。この場合各人間の連絡は一の暗示に過ぎず。



大正五年七月十二日印刷
大正五年七月十五日發行

複製轉載を許さず

指導者著作者　向井章
發行者　大阪市北區東梅田町三百三番屋敷　井上悌三
印刷者　大阪市西區土佐堀四丁目八番地　村上龍太郎
印刷所　大阪市西區土佐堀四丁目　三有社

版權所有

327
855

終